

## 【樹木の部屋】

トチノキ(ムクロジ科トチノキ属 *Aesculus turbinata* )

**和名**：トチノキ（栴の木） **別名**：

**英名**：Japanese horse chestnut

ムクロジ目 落葉広葉樹 **原産地**：日本

**花言葉**：贅沢、健康、豪奢 **花色**：白



← 写真-1 トチノキ

撮影日：2021年6月12日

撮影場所：奈良市郊外の街区公園にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 トチノキの葉

撮影日：2021年6月12日

撮影場所：奈良市郊外の街区公園にて

撮影者：M さん



← 写真-3 トチノキの樹肌

撮影日：2021年6月12日

撮影場所：奈良市郊外の街区公園にて

撮影者：M さん

落葉性の高木で、温帯の落葉広葉樹林の重要な構成種の一つです。水気を好み、適度に湿気のある肥沃な土壌で育ちます。谷間では、より低い標高から出現することもあり、サワグルミなどとともに姿を見せることが多いそうです。また、大木に成長し、樹高 25m、直径 1m を超えるものが少なくないそうです。

長さ 7~30cm、幅 4~10cm の倒卵状で長楕円形の小葉を 5~7 枚を掌状につけ(掌状複葉)で枝先に集まって着く傾向があります。樹皮は大きく割れてはがれ落ちます。小葉には柄はなく基部は細いくさび状で先端は急に尖り、葉先から 3 分の 1 付近が、一番広くなります。表面は濃緑色無毛ですが裏面は淡緑色で葉脈上にわずかに毛が見られ、縁には不規則な重鋸歯があります。葉脈ははっきりして裏側にわずかに凹みます。長さ 10~30cm の柄を持ち、褐色の太い枝に対生しますが、枝先の節間が詰まってつきます。

花期は 5 月~6 月で、葉の間から長さ 15~25cm、径 5~10cm で円錐形の穂状(複総状花序)の多数の花をつけます。花は横向きに咲き、径 1.5cm ほどで花弁は 4 個あり、白色で基部に淡い紅色の模様があります。花弁はさほど大きくはなく、雄蕊が長く伸び、全体としてはにぎやかで目立つ姿です。花は蜜源となります。

秋には、ツバキの実に似た果実を着けます。果実は径 3~5cm で球状の蒴果で、表面にはこぶ状の突起があります。種子は 1~2 個あり、栗のような形をしています。一般に「栃の実」と呼ばれて食用にされるのは、この種子です。

種子にはデンプンやタンパク質が多く含まれ、「栃の実」として渋抜きして食用になります。食用の歴史は古く、縄文時代の遺跡からも出土しています。例えば埼玉県川口市の赤山遺跡では栃の実の加工工場ともいふべき施設があったことがわかっており、大型の土器、臼代わりに利用された石、木製の水槽などが出土しているそうです。

木材としても利用され、木質は芯が黄金がかった黄色で周辺は白色調、綺麗な杻目がでることが多いそうです。一方、真っ直ぐ伸びる木ではないので変化に富んだ木材となりやすく、乾燥が進むと割れやすいそうです。

増殖は実生、接木によります。種子は乾燥すると発芽率が落ちるので、取播きにします。実生では成木になるまで 30 年かかります。